

タイ編 ASEAN最大の訪日市場に

ビジット・ジャパン(VJ)事業における重点20市場の一つであるタイは、2016年1月から11月までの訪日旅行者数が前年同期比14.5%増の80万5100人を記録し、東南アジア諸国連合(ASEAN)の中で最大マーケットとなっています。年間200万人を超える規模となったASEAN市場において、全体の伸びを象徴する存在のタイは、今後も好調なASEANからの訪日需要を牽引していく有力市場の一つとして期待されています。

2015年は逆風の中で前年比2割増

タイの人口は6866万人、国民一人当たりのGDPは5445米ドル(何れも2014年)で、2015年における訪日タイ旅行者数は79万6700人に達し、前年比21.2%増を記録しています。

日本政府観光局(JNTO)によると、2015年に日本を訪れたタイ人旅行者数は、これまでの最高だった2014年の65万7570人を上回って過去最高を更新しました。

タイでは、国際民間航空機関(ICAO)がタイにおける航空の安全性への懸念を示したことからLCCの運航継続が断念されたほか、8月にはバンコクでの爆弾テロ事件が発生し、2015年には旅行市場における逆風も強まりました。しかし、ソンクラーン休暇のあった4月には観光需要が急増して、東南アジア市場で初めて訪日旅行者数が単月で10万人を超える好調ぶりを示すなど、逆風による大きな影響は回避されています。

JNTOでは、8月半ばからJAPAN STORYをテーマに、地方における観光魅力の発信を中心に多様な訪

日旅行プロモーションを展開。11月に開催されたFIT FAIRの来場者は約4万6000人を数え、販売実績でも前年比20%増の5892人と過去最高を記録し、12月の訪日旅行者数を大きく押し上げる結果となりました。

4年間で3倍に拡大した訪日旅行者

さらに、2016年11月までの11カ月間における訪日旅行者数も前年同期比14.5%増の80万5100人に達して、2015年における年間旅行者数を上回っています。タイ国王の崩御(10月13日)を受けて、旅行自粛や報奨旅行の延期といった傾向もみられたものの、LCCによる航空券販売や格安ツアー商品の売り上げが好調を維持して、訪日需要の増加傾向に変化は生じませんでした。

また、一時的に中止されていたオンラインによる旅行情報の発信なども徐々に再開されてきており、今後の訪日タイ人旅行者の動きに勢いが増すことも期待される状況となっています。

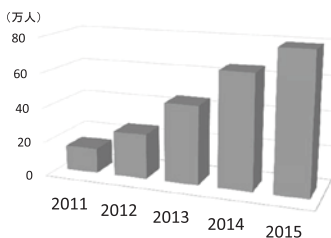
JNTOによると、アジア各国・地域へのタイ人旅行者数は、100万人を超えています。マレーシアがトップの座を維持しています

が、2010年には、中国(63万5539人)や香港(44万9812人)、シンガポール(43万0067人)、韓国(26万0718人)を下回っていた日本(21万4881人)も、2014年には65万7570人まで増加して、中国(61万3100人)・シンガポール(50万6509人)・香港(48万521人)・韓国(46万6783人)を上回るまでになっており、タイにおけるアウトバウンド市場が拡大する中で、日本の人気は着実に高まってきています。



賑わいをみせた TITF での日本ブース

過去5年間の訪日客数推移(総数)



※出典: 日本政府観光局(JNTO)

タイからの過去5年間の訪日外客数(月別)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
2011	11,412	13,597	11,718	8,001	8,457	7,507	12,180	8,631	13,701	19,517	11,488	18,760	144,969
2012	12,092	15,345	26,313	40,821	24,016	13,608	16,347	11,812	18,775	31,701	24,239	25,571	260,640
2013	16,101	19,890	44,848	60,212	40,263	20,502	30,189	23,849	29,278	61,306	51,185	56,019	453,642
2014	27,161	34,334	71,122	99,396	62,254	36,323	42,891	29,355	31,058	79,388	68,024	76,264	657,570
2015	44,770	44,038	92,438	117,930	81,015	43,390	51,852	31,289	34,385	86,001	76,145	93,478	796,731

※出典: 日本政府観光局(JNTO)

JNTO商談会で認証制度を紹介
2016年2月にバンコクのクイーンシリキット・ナショナル・コンベンションセンターで開催されたタイ旅行業協会(TTAA)主催による第18回「タイ・インターナショナル・トラベルフェア(TITF)」には、日本からも自治体や旅行会社など79団体が参加しました。

日本ブース以外では旅行商品の販売が可能のため、韓国や中国、台湾をはじめ、ASEAN各国などのブースでは旅行会社が積極的に出展し、韓国は「雪」をイメージしたブース展開で2018年に開催される平昌オリンピックをアピールするなど、急成長するタイのアウトバウンドマーケットが国際旅行市場でのプレゼンスを高めていることを印象づけています。日本ブースの人気も高く、同トラベルフェアでは平日の開催期間中も、多くのタイ人消費者が訪れました。

TITFに併せて、JNTOがタイのインセンティブ市場で日本をアピールするために開催した業界セミナー「商談会」には、タイ側から47社のバイヤーと日本側から17団体のセラーが参加。セミナーでは、ツアーオペレーター品質認証制度や認証会社の紹介がタイ語で実施されています。また、タイ側バイヤー53社と日本側セラー50団体が参加した観光旅行市場向けの業界セミナー・商談会でも、ツアーオペレーター品質認証制度と認証会社を紹介するプレゼンテーションが実施されました。